

山口県医師確保計画の進捗状況について (令和2年度の取組状況)

1 医師少数区域等への医師の効果的な配置

地域枠医師（医師修学資金貸与者）及び自治医科大学卒業医師について、医師少数区域等に所在する公的医療機関等への派遣調整を行った。

(1) 地域枠医師（医師修学資金貸与者）

令和2年2月17日に開催した、県医療対策協議会での協議に基づき、令和2年度の勤務先を決定した。

【医師修学資金貸与者の配置状況】

貸付区分	対象者数	勤務先(人数)
緊急医師確保対策枠	11人	山大附属病院(5)、県立総合医療センター(2) 周東総合病院(1)、徳山中央病院(1) 宇部興産中央病院(1)、萩市民病院(1)
地域医療再生枠	17人	山大附属病院(10)、周東総合病院(1) 県立総合医療センター(1)、下関医療センター(1) 関門医療センター(1)、済生会下関総合病院(1) 下関市立豊田中央病院(1)、長門総合病院(1)
特定診療科枠・外科枠	17人	山大附属病院(9)、県立総合医療センター(3) 周東総合病院(1)、徳山中央病院(1) 済生会山口総合病院(1)、山陽小野田市民病院(1) 下関医療センター(1)
旧地域枠(※)	7人	徳山中央病院(3)、山大附属病院(2) 下関医療センター(1)、関門医療センター(1)
	52人	

【地域枠医師の勤務開始年(推計)】

(単位:人)

勤務開始年	~2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	計
緊急医師確保対策枠	10	4	2	6	6	5	7	5	5	5	55
地域医療再生枠	11	10	10	9	9	7	12	8	11	10	97
特定診療科枠・外科枠	38	6	2	3	2	5	3		2		61
県外医学生支援枠			1		3	1			1		6
旧地域枠	13										13
計	72	20	15	18	20	18	22	13	19	15	232

資料：県医療政策課調査（R3年1月末時点）

※旧地域枠：2007年度～2009年度に、山口大学医学部推薦入試「地域枠」入学者を対象に募集・貸付を行った医師修学資金。

(2) 自治医科大学卒業医師

各市町からの派遣要望、当該医療機関における医師の配置状況、外来患者数、近隣の医療機関の状況等を総合的に勘案して、義務年限内の医師を「へき地診療所」や「へき地病院」へ派遣している。

【自治医科大学卒業医師の状況】

(R2.4 現在)

区 分		人 数	摘 要
義務内	本県出身医師	19 人	
	へき地の公的医療機関等	10 人	
	研修中(県総合医療センター)	7 人	臨床研修 4 人、後期研修 3 人
	研修中(萩市民病院)	1 人	後期研修 1 人
	婚姻協定による県外勤務	1 人	青森 1 人
	他都道府県出身医師	3 人	婚姻協定による本県勤務
	へき地の公的医療機関等	2 人	
	研修中(県総合医療センター)	1 人	後期研修 1 人
	計	22 人	

2 本県医療を担う医師・医学生の確保

(1) 医師修学資金の貸付

医師修学資金の貸付により、県内の公的医療機関等で勤務する医師の確保に努めている。

【山口県医師修学資金の概要（令和3年度募集・貸付予定分）】

区 分・対象者	貸付金額	貸付期間	貸付枠	返還義務免除条件
緊急医師確保対策枠 山口大学医学部推薦入試 「緊急医師確保対策枠」入学者	月 額 20万円	6 年	5 人	9 年間（うち 4 年間は過疎地域の病院）知事指定医療機関に医師として勤務
地域医療再生枠 山口大学医学部推薦入試 「地域医療再生枠」入学者	月 額 15万円	6 年	10 人	9 年間、知事指定医療機関に医師として勤務
特定診療科枠・外科枠 県内出身の医学生 (1～6 年生)	月 額 15万円	6 年 以内	10 人	貸付期間の 1.5 倍の期間、知事指定医療機関に特定診療科等（小児科、産婦人科、麻酔科、救急科、放射線治療科、病理診断科、呼吸器内科、外科）の医師として勤務

【貸与者の状況】

(R3.1 現在)

区分	総数	特定診療科枠							外科枠	県外枠	緊急枠	地域再生枠		旧地域枠
		小	産	麻	救	放	病	呼				山大	鳥大	
貸与者	232	20	12	12	4	1	1	0	11	6	55	94	3	13
勤務医	92	16	7	8	1	1	1	0	10	0	14	21	0	13
臨床研修医	33	1	1	1	1	0	0	0	1	1	8	17	2	0
学生他	107	3	4	3	2	0	0	0	0	5	33	56	1	0

(2) 山口大学医学部における地域枠の設置・増員

令和2年度(2020年度)入学者から、大学が独自に設定している「地域枠(県医師修学資金貸与と連動しない医学部推薦入試)」が増員(15人→22人)された。

なお、令和4年度(2022年度)までの臨時的な定員増(特別枠:緊急医師確保対策枠及び地域医療再生枠)については、令和3年度までと同様の設定とされている。

また、令和5年度(2023年度)以降の臨時定員については、令和3年(2021年)春を目途に国において検討される。

【山口大学医学部入学定員の推移】

(単位:人)

年 度		2006	2007～ 2008	2009	2010	2011～ 2015	2016～ 2019	2020～	
定 員 (A+B+C)		95	95	105	114	117	117	117	
内 訳	A 一般入試	75	65	70	66	67	70	65	
	うち後期日程:地域枠(県内出身者に限る)								3
	B 推薦入試	10	20	25	38	40	37	42	
	全国枠	10	10	10	10	10	7	5	
	地域枠(県内出身者に限る)		10	10	15	15	15	22	
	緊急医師確保対策枠(※)			5	5	5	5	5	
	地域医療再生枠(※)				8	10	10	10	
	C 学士編入	10	10	10	10	10	10	10	
	うち地域枠(県内出身者に限る)	3	3	3	3	3	3	3	

※2018年度以降は、県内出身者に限る

(3) 県内定着を促進するキャリア形成支援

県と山口大学が連携して設置する「地域医療支援センター」において、貸与者に対する相談対応・キャリア形成支援を行っている。

(4) 自治医科大学卒業医師の養成・確保

自治医科大学で計画的に医師を養成し、へき地医療を担う医師の確保に努めている。

・令和2年度入学者:2名

(5) 地域医療に対する理解の促進

県、関係市町、県立総合医療センター、山口大学、山口県立大学等が連携して「地域医療セミナー」を、県内7市町のリレー方式によるオンラインで開催した。

・やまぐち地域医療セミナー2020

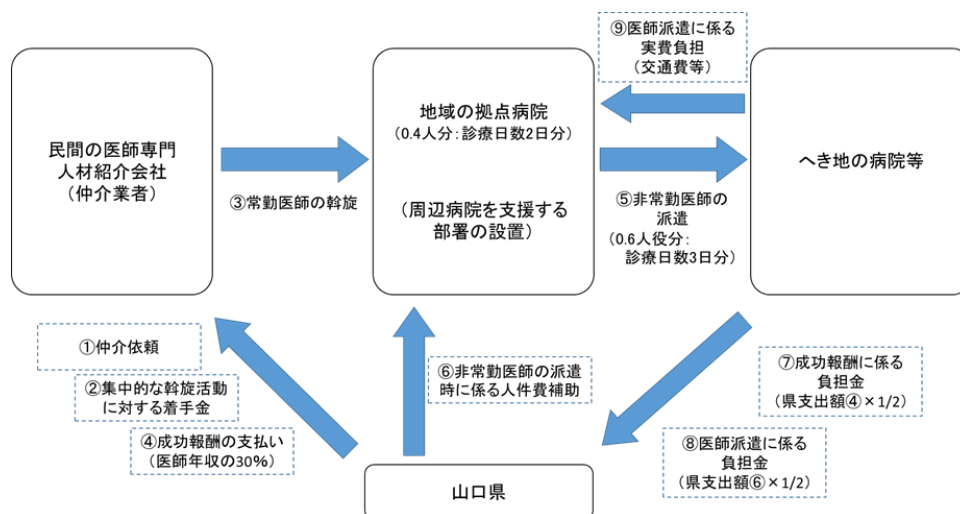
開催日:令和2年8月17日(月)～9月9日(水)

開催市町:周南市、萩市、岩国市、下関市、周防大島町、長門市、美祢市

参加者:のべ42名

(6) 地域医療を支える医師確保の促進

医師専門人材紹介会社を活用して、へき地医療拠点病院などに医師を新たに確保し、医師が不足しているへき地等にある医療機関に派遣する仕組みを構築した。



(7) 地域医療を支える意識の醸成

医学部を志望する県内高校生が、医療現場や地域医療の担い手に触れる機会となる「地域医療セミナー」をオンラインで開催した。

- ・やまぐち地域医療セミナー2020 高校生セミナー

開催日：令和2年11月15日(日)、12月12日(土)、22日(火)

参加者：のべ43名

(8) 高齢医師の活躍の促進

ドクターバンクやまぐち(医師無料職業紹介事業)を活用し、地域医療で活躍できるよう、取り組んでいる。

3 臨床研修医の確保

(1) 研修推進体制の整備

県や県医師会、山口大学医学部附属病院をはじめとする県内の臨床研修病院が一体となって「山口県医師臨床研修推進センター」を設置し、臨床研修医の確保及び研修体制の整備に取り組んでいる。

(2) 臨床研修病院における研修実施体制の充実

研修を受ける指導医への助成等に取り組んでいる。

(3) 臨床研修医の確保

コロナ禍で、対面となる説明会や現地見学会は中止となったが、オンラインでの説明会を開催するなど、臨床研修医の確保に努めている。

- ・県内臨床研修合同説明会

開催日時：令和2年7月20日(月)～22日(水) 各日とも17時30分～20時

参加者：県内15臨床研修病院 医学部生など、のべ188名

・e レジフェア西日本オンライン 2020

開催日時：令和2年11月1日(日) 10時～15時

参加者：県内13臨床研修病院 医学部生など、のべ197名

4 専門医の養成

(1) 専門研修推進体制の整備・充実

県や県医師会、市町、専門研修プログラム基幹施設等で構成する「山口県医療対策協議会専門医制度部会」を設置し、臨床研修後、引き続き県内で専門医を目指す専攻医の確保に努めている。

・山口県医療対策協議会専門医制度部会の開催

令和2年度：第1回 R2.7.30 第2回 R3.3 開催予定

また、臨床研修医等を対象に、県内の専門研修プログラムを紹介する説明会をオンラインにより開催した。

・専門研修合同説明会 in やまぐち

開催日時：令和2年8月29日(土) 13時～17時

参加者：23プログラム 臨床研修医など、のべ105名

(2) 総合診療医の養成・確保

へき地医療において重要な役割が期待できる「総合診療専門医」の研修プログラムの魅力向上を図るとともに、専門医取得後の医師を対象とした「フェローコース」の設置を進め、へき地の医師確保・定着に取り組んでいる。

5 新たな情報通信技術の活用

(1) 5Gを活用した医療提供体制の充実

県立総合医療センターと岩国市立美和病院を5Gでつなぎ、オンラインによる専門医の助言に基づいた診療の実証実験を行い、専門医のいないへき地の医療機関に勤務する若手医師の診療をサポートする体制づくりに取り組んでいる。



6 勤務環境の整備

(1) 勤務医の勤務環境の改善

産科医等の処遇改善や、仕事と家庭の両立ができる勤務環境の整備に取り組む医療機関への助成を行い、その取組を支援している。

また、県が設置している「医療勤務環境改善支援センター」によるアドバイザー派遣等により、医療機関における勤務環境改善の仕組みづくりを支援している。

(2) 女性医師のキャリア形成支援

山口大学と連携し、出産等により一時的に離職した女性医師の復職を促進するとともに、女性医師のライフサイクルに応じたキャリア形成等を支援している。

また、保育相談員を設置し、県医師会が運営する「保育サポーターバンク」との連携による育児支援を行い、女性医師の離職防止や再就業の促進を図っている。

7 情報発信等

(1) 様々な情報媒体を活用した情報発信

○山口県医師確保総合情報サイト「やまぐちドクターネット」の運営

登録者に対しメールマガジンの配信（年6回程度・隔月）

○医学生向けポータルサイトへの臨床研修病院PR広告の掲載

○情報誌の発行等

臨床研修・専門研修ガイドブックの作成・配布

地域医療紹介誌「山口県地域医療の風だより」の作成・配布

(2) 県外医師の県内就業の促進

ドクターバンクやまぐち（医師無料職業紹介事業）により、県外医師の県内就業に取り組んでいる。

また、県外医師等を県職員として採用し、医師の確保が困難なへき地の公的医療機関に派遣する「ドクタープール」制度を活用し、へき地で勤務する医師の確保に取り組んでいる。

8 産科・小児科の医師確保に向けた施策等

○ 医師修学資金の特定診療科枠に産婦人科・小児科を指定し、修学資金の貸与や県地域医療支援センターにおけるキャリア形成支援等の取組等を通じ、周産期医療、小児医療を担う医師の養成・確保に努めている。

○ 産科医・小児科医の処遇を改善するため、分娩手当や産科専攻医への手当、新生児医療担当医への手当を支給する医療機関への補助を実施している。

○ 代診医の確保や女性医師にも対応した勤務環境改善等の支援を行っている。

【勤務開始した地域枠医師の診療科（令和2年4月時点）】

（単位：人）

区分	緊急医師確保対策枠	地域医療再生枠	特定診療科枠	旧地域枠	計
産婦人科		1	7	2	10
小児科	3	2	16		21

資料：県医療政策課調査